

キャンプファイヤー

1 所要時間 1. 5～2時間

2 服装 活動しやすい服装（長そで・長ズボン）

3 準備物

- ・ 利用者 軍手、CDデッキ、延長コード、懐中電灯、救急用品、ゲームで使用する物
- ・ 施設側

品名	数量	品名	数量
けた木	注文段数	皮手袋	2組
トーチ	注文本数	スコップ	2本
薪（太・細）	注文数	鉄缶	3～5
新聞紙	2日分	灯油	1ℓ

4 活動場所 キャンプファイヤー

- ・ 大集会場（300～400人程度まで）
- ・ 小集会場（200人程度まで）

5 活動の流れ

(1) キャンプファイヤーの種類

① セレモニーファイヤー（儀式の火）

厳粛な雰囲気で行う儀式的なもの。一般的な場合、キャンプファイヤーの第一部と第三部がこれに当たる。

② ボンファイヤー（親睦の火）

ゲームやスタンツなどで楽しみ親睦を深めるもの。一般的な場合、キャンプファイヤーの第二部がこれに当たる。

③ グループファイヤー（団らんの火）

少人数で火を囲み、アットホームに意見の交換をしたり、語らったりするもの。

④ カウンシルファイヤー（会議の火）

火の回りに集まり、オリエンテーションをしたり、ミーティングをしたりするもの。

(2) プログラムの検討

① キャンプファイヤーのテーマを決定する。

② テーマに沿って歌やスタンツのやり方や順番、時間配分などを考える。

(3) 係の分担

① 営火長 : ファイヤーで始めと終わりに参加者に言葉を贈る。ファイヤー全体を統括する。

② 司会者 : ファイヤーの司会・進行・演出を行う。全体の流れをつかみ、歌やスタンツを行う。

③ 火の使い : トーチの入場と退場を行う。

④ 誓詞者 : 営火長から分火された後、誓いの言葉を述べ、火床に点火する。

時 間	係		誓 詞 者	營 火 係	引 率 ・ 指 導 者	施 設 職 員
	火の使い	内 容				
－ 9 0 ～	1. 事前準備	入・退場の練習	分火の練習	けた木組み、水栓確認	①用具の受け取り ②片付け方法の確認 ③避難誘導場所の確認 ④水栓の確認 ⑤天候の確認 ⑥実施・中止の判断	用具の提供 天候情報の提供 実施・中止の最終確認
0	2. 全体説明	全体説明を聞く。 所定の位置につく。			全体説明を行う。 避難場所の照明点灯	
1 0 ～	3. 入場	待機	入場	待機	司会進行をする。 営火長は入場を見守る。	
1 5 ～	第1部 『迎え火の集い』	営火入場で入場	分火と誓詞の合図で出る。		①開会の言葉 ②迎え火の歌 ③営火入場 ④営火長の言葉 ⑤分火と誓詞 ⑥点火 ⑦炎の歌	
3 0 ～	第2部 『交歓の集い』			火の管理	司会進行	
1 0 0 ～	第3部 『送り火の集い』	営火退場で退場		鎮火するように管理	①静かな歌 ②営火長の言葉 ③送り火の歌 ④営火退場 ⑥閉会の言葉	
1 1 0 ～	4. 片付け	消火確認	参加者誘導	消火作業	①参加者誘導 ②消火・散水作業 ③用具回収 ④照明消灯 ⑤終了報告	終了報告を受ける。 消火の確認
翌朝					①炭・灰の処理 ②用具の返却	用具返却の点検 ファイヤー場の点検

⑤ 営火係 : 井げた準備、トーチ準備、本番の火の管理、後片付けなど裏方の仕事を担当する。
事前にエールマスターと入念に打ち合わせを行い、火の勢いを調節する。

6 活動の実際（一般的な例）

（1）当日の準備

- ① 代表者は16時までに施設職員と打ち合わせをする。
- ② 必要な用具（打ち合わせ時に受け渡し）を活動場所へ運ぶ。
- ③ ファイヤーサークル内にまき組みを作る。
- ④ トーチの布の部分に灯油を浸しておく。
 - ・ 本番30分ほど前には灯油を切り、柄を下にして立てておく。
- ⑤ 営火長、誓詞者、火の使いを集めてリハーサルをする。（位置、持ち方、点火の仕方など）

（2）集合…つどいの広場・小集会場

- ① ファイヤーの流れと盛り上げ方の説明
- ② 歌の練習
- ③ 諸注意（ムードを壊さない態度について）
- ④ 営火長、火の使い、ファイヤーキーパーは事前に移動
- ⑤ 会場へ入場（エールマスターを先頭に、無言のまま入場し、円をつくる。）

（3）展開

第1部『迎え火の集い』

- ① 開会の言葉（エールマスター）
- ② 迎え火の歌（全員で）
 - ・ 「遠き山に日は落ちて」1番斉唱、2番からハミング。
- ③ 営火入場（火の使い）
 - ・ ハミングに入った頃、入場。参加者の顔を照らすように円を一周する。
- ④ 営火長の言葉（営火長）
 - ・ 星や火に関わる話、地元の昔話などで厳粛なムードを作る。
- ⑤ 分火と誓いの言葉（誓詞者）
 - ・ 営火長の言葉が終わってから、誓詞者は営火長の前に出て分火してもらう。
 - ・ トーチを高く掲げ、誓いの言葉を述べる。
- ⑥ 点火（営火長・誓詞者）
 - ・ 分火が終わってから、営火長の言葉でまき組みに点火する。
 - ・ 点火後、トーチの火を消して横に避けておく。
- ⑦ 炎の歌（全員で）
 - ・ 「もえろよもえろ」 火の強さとともに大きな声で明るく歌う。

第2部『交歓の集い』

- ・ 各グループのスタンツと全員でできるゲームや歌を組み合わせながら雰囲気盛り上げる。
- ・ 序盤は参加者の気持ちや体をほぐす簡単なゲームなどを行い、中盤から動的なものに移す。
- ・ 終盤は第3部に移るために気持ちを落ち着け、静的なものを行う。

第3部『送火の集い』

- ・ 参加者の気持ちが落ち着いた頃を見計らって第3部に入る。

① 静かな歌（全員）

- ・ 歌の間に営火長は所定の位置に立ち、ファイヤーキーパーは残り火からトーチに採火し営火長に渡す。

② 営火長の言葉（営火長）

- ・ つどいの最後を飾るような印象的な話をする。

③ 送り火の歌（全員）

- ・ 「今日の日はさようなら」
- ・ 1番、2番は歌詞を、それ以降はハミングで歌う。

④ 営火退場（火の使い）

- ・ 歌を歌っている間に火の使いは営火長からトーチを受け取り、参加者の顔を照らしながら一周して退場する。

⑤ 閉会の言葉（エールマスター）

- ・ 締め言葉の後、エールマスターを先頭にハミングしながら退場する。
（最後までムードを壊さないように）

(4) 終了後

- ① ファイヤーサークル内の燃え残りは、水を十分にかけて消火し、鉄のふたをかけておく。
 - ・ トーチも確実に消火しておく。
- ② 事務所まで終了の報告をする。
- ③ 翌朝、スコップとケンドを使って燃え残りを砂と分け、鉄缶に入れる。
 - ・ 用具とともに野外活動棟の灰捨て場まで運ぶ。
 - ・ ファイヤーサークル内の砂はならしておく。（周辺の清掃も忘れずに）

(5) 営火係の仕事

第1部

- ① 火の使いのトーチに点火する。
- ② まき組みへ点火した後のトーチを回収する。
 - ※ 軍手の上から市販の皮手袋を重ねると安全である。

第2部

- ① それぞれの出し物に必要な明るさを保つために、ゲームやスタンプの合間に井げたの上の木から崩して中に入れたり、補充のまきを入れたりする。
- ② 第3部に入る前までに、まき組みがだいたい燃え落ちるのが理想である。必要に応じて、残り火に土をかけて火を小さくする。

第3部

- ① 火を小さくした残り火からトーチに採火して営火長に渡す。
- ② 退場した火の使いのトーチを消火する。

7 その他

(1) キャンプファイヤーの留意点

- ① 静（星明かり、夜の闇、無音の世界）と動（ゲーム、スタンプ、歌）の組み合わせを工夫する。激しく動くだけでなく、自然の静かさや火の暖かさを感じたり、しみりしたりする時間を共有する。
- ② 終了後まで興奮を持ち越さない。
- ③ エールマスターを中心にスタッフが一丸となり計画から準備、本番と進めていく。
- ④ 参加者はキャンプファイヤーの意義を十分理解し、スタッフと共に楽しみを作り出す主体となるよう自覚する。
- ⑤ キャンプファイヤーの火は必要以上に大きくしない。大き過ぎると火の向こう側のスタンプが見えにくくなる。環境への配慮と共に火の調節を心掛ける。

(2) けた木の組み方例

- ① 井げたの2段目の上に、細まきをすのこ状に組んでいく。
- ② その上に太まきを組んでいく。
この時、燃えやすいよう所々に新聞を入れる。

(3) トーチについて（営火長と誓詞者の使う分は施設で準備できる。事前連絡必要）

- ① 布はしっかりと締めながら棒に巻き付ける。（布は綿がよい。）
- ② 針金で、まず下の部分をしっかりと止める。
それから、らせん状に巻き上げて巻き下ろし、下の部分で止める。
（針金の太さは1.5mmくらいが適当）
- ③ 棒の長さは、短すぎると危険。60cm以上。